

THE 市町支援通信

～三重県に生まれ育つすべての子どもに途切れのない支援を～

あすなろ学園市町支援課は、
途切れのない支援システムの構築を推進しています。

三重県に生まれ育つすべての子どもの発達保障・子育て支援を目指し、あすなろ学園は多くの市町と共働しながら、以下の取り組みを進めています。

- ①発達総合支援室（保健・福祉・教育の一元化室）・機能の設置
- ②「CLM（チェック・リスト・in 三重）と個別の指導計画」による保育所・幼稚園での早期発見・支援 *CLMは、子どもの育ちを見極め、適切な支援を行うためのツールです
- ③みえ発達障がい支援システムアドバイザーの育成支援

巻頭言 子どもの育ちって考えたことある？

子どもは、体温を保たせ栄養を適切に与えてやれば、どの子も自然に大きくなっていく、そんなふうに考える人もあるようです。半分は正しく、残りはまちがっています。

誕生直後の新生児を母親の胸に乗せてやると、懸命に乳首の方へ這っていきます。DNAには、生きるための知恵がいっぱい書き込まれているのです。だけど、生まれたまま放っておかれると、体温が失われて命を終えます。これが、半分半分の実態なのです。

生まれる前に持っている生存力にも、個性があります。身長の高低と同じことです。からだやこころの機能はすべて、個人による凹凸があります。育ちにおけるこころの機能の凹凸へ医療的に対応してきたのが、県立あすなろ学園です。

でもある時期から、これはあすなろ学園だけが担っていく仕事であろうかと疑問を抱き始めました。試行錯誤の苦労を経た後に産み出されたのが、『CLM』というシステムなのです。

これを活用すれば、子どもが生まれたその地域で凹凸を早く発見し、直ちにその子の特徴に合わせた発達支援を地域で受けることができるようになります。そして、まさかのときの特別の支援を提供する場所として、あすなろ学園が控えているのです。

三重県の全市町が「CLMと個別の指導計画」を導入すれば、全国で一番安心して子産み・子育てできる自治体に三重県は生まれ変わります。

さあ、県民みんなで頑張りましょう。



「CLMと個別の指導計画」 作ってみた、演じてみた ～平成27年度「途切れのない発達支援研修会 市町ワークショップ」のご報告

平成27年度「途切れのない発達支援研修会 市町ワークショップ」を、松阪市、熊野市、四日市市、伊勢市で開催しました。当日は各会場とも、満杯の参加者の熱気であふれていました。

午前中は市町支援課から「保育・教育における目利き、腕利き」と題して講義を行い、午後はワークショップ形式で「CLMと個別の指導計画」を参加者が学びました。作り方の解説後、模擬事例をもとに、参加者が指導計画を作成しました。

その後できあがった指導計画が実際うまくいかかを確認するため、参加者が先生役、子ども役となり指導場面のロールプレイを行いました。参加者の方々は緊張してステージに立たれた様子でしたが、いざ始まると日頃の保育実践さながらの指導場面を郷土色豊かに演じてくださいました。その後の質疑応答では、参加者が日頃子どもに接する中で抱く問題意識を共有しました。



笑いあり、真剣なやり取りありで参加者の皆様には中身の濃い学びをしていただけたと思います。

（参加者の声・抜粋）

「本日のワークショップで個別の指導計画の作成をすることがとても楽しかった。このように明るい指導計画作成タイムを目指していきたい。」（玉城町、保育士）

「気になる子は、ついつい保育の中で注意することが多くなってしまいが、それはその子の特性に対し保育がうまくかみ合っていないから……気になる子だけでなく、クラス全体が過ごしやすく分かりやすい保育をしていきたい。」（四日市市、幼稚園教諭）

「実際の場合では、計画通りにうまくいかない場合もありますが、その子の様子を見て、よりその子に合ったものに変えていくということも勉強になりました。」（伊勢市、教員）

「CLMと個別の指導計画の作成について、一人だと分からなかったと思うが、隣の人と一緒に考えることで少し分かった気がする。」（熊野市、保育士）

市町支援課では、春の巡回指導を準備中です。

「CLMと個別の指導計画」を今後保育場面で活用するにあたっては、あすなろ学園職員や各市町の「みえ発達障がい支援アドバイザー」がお手伝いします。また「CLMと個別の指導計画」実践報告会を各市町で計画される場合もご相談ください。

「みえ発達障がい支援システムアドバイザー」

平成27年度 研修者をご紹介します

あすなる学園では、今年度6市町から新たな研修者をお迎えして「みえ発達障がい支援システムアドバイザー」の育成を行っています。「発達総合支援室・機能」の要として住民の方々に頼られ、また「目利き、腕利き」として保育・教育の現場に頼られる、そんな存在を目指して4月にスタートを切りました。

今年度の研修者の皆さんを、その抱負と共にご紹介します。



《いなべ市 水谷 真美》
4月から、「あすなる学園」という新しい扉を開き毎日が学びです。一年後、素敵なアドバイザーになれるように日々、精進します！よろしくお願いします。



《多気町 池下 浩人》
あすなる学園での研修を通し、専門性を高めることはもちろんですが、今までの自分自身を振り返り、「学び直し」の一年にしたいと思います。研修する機会を与えていただいたことに感謝し、精一杯頑張ります。



《四日市市 竹内 明子》
たくさんの人達に出会って学び多き日々を送っています。ひと回り大きくなって市町にもどれるようがんばります。



《伊勢市 船越 美幸》
新たな環境で日々刺激を受けています。1年間の研修を通して学んだことを地域で活かせるよう、成長したいと思います。



《菰野町 藤田 亮祐》
アドバイザー研修が始まり、毎日頭をフル回転させる日々を送っています。みえ発達障がい支援システムアドバイザーを目指し、一緒に研修に参加している6名とこのあすなる学園で沢山のことを学びたいと思います。



《鳥羽市 小竹 麻衣子》
この一年間、たくさんの知識と出会いを大切に、学んだことを自分の引き出しに入れていけるよう積極的に頑張りたいと思います。よろしくお願いします。

みえ発達障がい支援システムアドバイザー

総会が開かれました

平成27年4月15日に「みえ発達障がい支援システムアドバイザー総会」が実施されました。総会では、まずアドバイザー各々が今年度の動向を話し合い、交流を深めました。続いて年間研修計画を伝え、「スキルアップ研修」を実施しました。

参加したアドバイザーの方々からは「他市町のことを知る良い機会だった」「先輩や他の方々の様々な意見・視点を知り勉強になった」といった感想を頂きました。このような情報交換や学び合いを生かし、地域に即した積極的な活動ができるよう、アドバイザーの支援を今後とも行っていきます。また、アドバイザーを新たに育成したい、後任を育てたいといったご相談もお受けしておりますのでどうかご連絡ください。



スキルアップ研修のひとこま

インフォメーション

～今年度あすなろ学園、市町支援課の行事紹介～

あすなろ学園30周年記念シンポジウム～地域子育て支援の更なる充実をめざして～

- <日 時> 平成27年7月31日(金)
13時00分開演(12時30分受付開始)16時00分終了予定
- <場 所> 三重県総合文化センター文化会館 中ホール
- <基調講演> 金井 剛 先生(横浜市こども青少年局中央児童相談所長 児童精神科医)
- <定 員> 900人
- <参加費> 無料
- <申込み> 「ご所属・職種・参加人数」を明記のうえ、FAXまたはEメールにて
7月24日までに申し込みください。
- <問い合わせ先> あすなろ学園医療連携室
電話：059-234-8700(内線331) / FAX：059-234-9361
Eメール：asunaro@pref.mie.jp

ザ・夏 途切れのない発達支援研修会

- <日 時> 平成27年8月27日(木)
13時30分から16時00分まで(12時30分から受付開始、13時00分開場)
- <場 所> 三重県総合文化センター文化会館 中ホール
- <内 容> 講演 「子どもの育ち」
講師 三重県立小児心療センターあすなろ学園園長 西田 寿美
- <対 象> 保健・福祉・教育等の子どもに関わる方、子育て中の保護者、県民の方々
- <参加費> 無料
- <問い合わせ先> あすなろ学園こどもの発達総合支援室 市町支援課
電話：059-234-8700(内線336) / FAX：059-234-9361
Eメール：asunaro@pref.mie.jp

「CLMと個別の指導計画」実践報告会

- <日時・場所> 11月8日(日) 三重県総合文化センター フレンテみえ多目的ホール
内容、参加申込要領などは後日お知らせします。
保育士、教員、行政職員など、発達支援に携わる多くの方のご参加をお待ちしています。

平成27年(2015年)6月15日

<発行> 三重県立小児(こども)心療センター あすなろ学園 広報担当：こどもの発達総合支援室 市町支援課
〒514-0818 三重県津市城山 1-12-3 TEL：059-234-8700 FAX：059-234-9361
MAIL：asunaro@pref.mie.jp URL：<http://www.pref.mie.lg.jp/ASUNARO/HP/>